

LUNAGROUP CHARTER、設立2年目にして売上高を3倍に拡大



セールスディレクターRémi Aubinとチームメンバー
©LunaGroup Charter

Luna Aviation Groupの商用チャーター部門であるLunaGroup Charterは、設立2年目にあたる2022年に、2021年の事業活動の3倍にあたる311の旅客輸送フライトを実現、1,500万ドルを超える年間売上を達成しました。

「当グループのチャーター事業が、パリオフィスのRémi Aubinの指揮の下、グループ全体の取引高の10%に達したことを喜ばしく思います」と、Luna Aviation GroupのCEOであるEymeric Segardは述べています。

「パンデミック後という背景や、国際イベントの開催が不透明であったこと、スローな滑り出しとなった年初の状況を考え合わせると、こういった数字を出せたこと、マーケットシェアを拡大できたことを大変うれしく感じています」と、LunaGroup CharterのセールスディレクターであるRémi Aubinは語ります。「年の初めには、パンデミックの影響で従来便の運航がなくなった場所への空路を確保するエアブリッジを構築することで、お客様のお役に立つことができました。第2四半期以降は、MICEやスポーツの国際大会、クルーズなどで業務が再び活発化しました。また、カタールで開催されたFIFAワールドカップにより、年末まで大変多忙な、充実した年となりました」



夏季の大混乱と爆発的な需要増

2022年後半には、それまで2年間にわたって続いた過去最悪の航空危機が終息、航空機による団体での移動が急速な回復を見せました。この未曾有の交通量の増大により、グランドハンドリングから航空管制に至るまで、サプライチェーンに大きな混乱が発生し、お客様に大変ご不便をおかけすることとなり、当社チームにとっても試練の時期と

なりました。「人手不足のため、業界ではキャパシティいっぱいまで運航を行うことができませんでした。夏季を通して定期便航空会社の便が不足する状態が続いたので、チャーターの需要の高まりは、ご予約をお受けしきれないほどになりました」と、Rémi Aubinは振り返ります。

第4四半期は、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、中東、アメリカでのさまざまな企業イベントの開催により、大変好調に推移しました。「私は、世界中のお客様に最高の体験をお届けするため、一つ一つのプロジェクトで、常に期待以上の努力を惜しまない当社チームメンバーを心から誇りに思っています。ドーハ、シンガポール、ヒューストン、ダンマム、カーディフ、パリなどあらゆる場所で、お客様に最高の旅行体験をお約束するため、当社のチームメンバーは、地上で、そして空で全力を尽くしています」と、Rémi Aubinは締めくくりました。

2023年の展望

LunaGroup Charterはフランスを起点に、ロンドン、ジュネーブ、ドバイに新オフィスを設立、拠点拡大を加速させています。「LunaGroup Charterでは引き続きパリを本拠とし、Rémi Aubinのリーダーシップの下で事業拡大を目指してまいります。同社の戦略は、グループのプライベートジェットチャーター事業であるLunaJetsの成功の要因を手本とし、それにならっていくことです。これらのビジネスラインに非常に大きな可能性があることは明らかです」と、グループのマネージングディレクターであるAlain Leboursierは述べています。LunaGroup Charterは、第1四半期末までに、パリのシャンゼリゼ通り近くの「トリアングル・ドール」地区にある、より大きなオフィスへと移転予定です。

LUNAGROUP CHARTERについて

LunaGroup Charterは、プライベートジェットチャーターのソリューションプロバイダーとして世界をリードするLuna Aviation Groupのグループ企業です。グループは、ジュネーブを本社とし、ロンドン、パリ、モナコ、リガ、ドバイにオフィスを構えています。グループのチャーター部門である同社は、数千の機体が利用可能な体制を整え、世界中であらゆる旅行プランに対応する商用ジェットチャーターのソリューションをご提供しています。グループのチャーターチームは、フライトに関するお客様のあらゆるニーズにお応えし、大人数でも、皆様一緒のご旅行を実現します。短期間のイベントから、企業発表会、製品発表会、セミナー、クルーチェンジまで、当社はグローバルな独立系グループとして、チャーターに関するお客様のご要望に、豊富な知見をもとにきめ細かくお応えします。